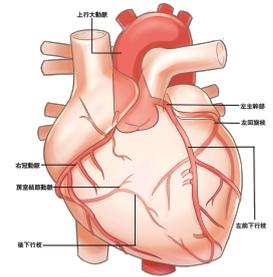
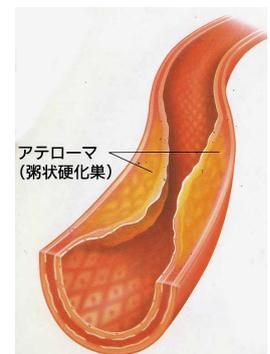


狭心症も心筋梗塞も、心臓を養う冠動脈の血液の流れが悪くなることでおこる病気です。冠動脈が詰まりかけて繰り返し胸痛発作が起きるのが狭心症、完全に詰まってしまって心筋が壊死をおこしてしまうのが心筋梗塞です。心筋梗塞は命に関わる病気なので、その前の狭心症の段階でしっかり治療することが大事です。狭心症をおこす原因には動脈硬化のほかに冠れん縮というのがありますので、順に説明していきます。



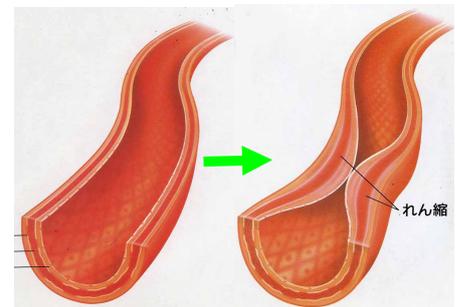
労作性狭心症

冠動脈の動脈硬化が原因です。血管が動脈硬化で細くなると、走ったり重い物を持ったり心臓に負荷がかかった時に心臓の筋肉（心筋）に十分な酸素が届かなくなり、胸痛が生じます。動くのをやめると心筋の酸素消費量が減るので、5分程度で胸の痛みは治まります。風船やステントで冠動脈を広げる経皮的冠動脈形成術やバイパス手術を行い治療することができます。



冠れん縮性狭心症

普段は正常な血管が、自律神経の影響などで収縮をおこして（これをれん縮と言います）、心筋に十分な酸素が届かなくなり、胸痛が生じます。このタイプの狭心症は、夜寝ている時や早朝、寒さなどで起こりやすいです。治療は飲み薬で行います。



不安定狭心症

狭心症の発作の頻度が増えたり、軽い労作で狭心症が起きるようになった場合は、心筋梗塞になりやすい状態と判断され、不安定狭心症と呼ばれます。すぐに入院して治療する必要があります。

急性心筋梗塞

冠動脈が完全に詰まってしまうと、心筋に酸素や栄養が全く行かない状態になってしまい、心筋の壊死がおこります。心筋梗塞の胸痛は狭心症よりも強く、数時間以上続きます。壊死した心筋はもろくなって収縮しないので、心不全をおこしたり、心臓破裂や不整脈をおこしたりして、適切な治療を行ったとしても約10%の人が急性期に亡くなります。急性心筋梗塞の治療は時間との勝負です。胸痛発作が長引く場合はためらわずに救急車を呼んで、県立新庄病院で治療を受けて下さい。